



福島高校、甲子園へ出場

昭和51年8月、福島高校野球部は第58回全国高校野球選手権大会に宮崎県代表として出場しました。試合には、串間市から福島高校の生徒や父母など約400人の応援団がかけつけました。試合は新潟代表の高田商業高校に10対7で惜しくも敗れましたが、選手たちの奮闘に、応援団から大きな拍手が送られました。～昭和51年8月発行・広報くしまから～



甲子園出発時に串間駅前でされた壮行式



My Town Topics

まちの話題

市内の話題や出来事などを写真を交えて紹介します。

Scene 6

駅伝での健闘を誓いました



12月4日、第2回県市町村対抗駅伝の串間市選手団結団式が陸上競技場で開かれました。式には参加選手11人が出席。北方中学校3年生の宮崎雄野くんが選手宣誓、また矢野忠利監督は今年の24位を超えたいとの目標を話しました。選手たちは1月9日の大会に向けて、合同練習と個人練習を積み重ねています。大会ではぜひ串間代表の選手たちを応援してください。



目標区間一位

日南学園高校3年生

堀口涼平くん

去年に続いて2度目の大会出場です。去年は補欠でしたが今年こそは本番で走りたいと思っています。去年走れなかった分、頑張って走り切りたいですね。目標は自分の区間で1位になることと去年の総合成績を上回ることです。

Scene 5

串間で芸術に触れる機会を



12月2日、串間市文化会館で開館20周年記念事業の「二宮勝憲&宮崎県美術協会展」の開催式が開かれました。式には野辺修光市長や市民など約60人が出席。美術展は二宮さんの協力で実現したものです。二宮さんの個展のほか、協会の絵画や彫刻など30点を展示。式では二宮さんのあいさつの後、母への思いをもとにかかれた絵画「海」を市に寄贈されました。



芸術の機会に

宮崎市

二宮勝憲さん

ふるさとの串間で個展を開催することが長年の夢でした。今回の美術展では、美術協会の皆さんの協力で作品を展示することができました。芸術作品に触れることで、串間の子どもの芸術への関心が少しでも高まればと思っています。

Scene 4

養豚を学び地産地消を学習



12月1日、市木小学校で地産地消と食育への理解を深めるため「とんとん教室」が開かれました。これは、JAや畜産関係者などが、子どもたちに豚肉の生産について学んでもらうため実施したものです。子どもたちは、豚肉の生産や流通などについて授業を受けた後、ソーセージ教室で手作りソーセージに挑戦。最後は、できあがったソーセージをみんなで食べました。



初体験に感動

市木小学校2年生

大下桃華ちゃん

初めてソーセージ作りに挑戦しました。ソーセージに羊の腸が使われていることは知らなかったのでびっくりしました。お肉を腸に入れるとき、破けないように気をつけて詰めるのが難しかったです。今度は家でソーセージを作りたいです。

Scene 3

協働に向けての意見を交換



11月29日、市民協働商談会「ふれあい協働ステーション」（串間市協働推進センター設立準備事務所パナップ主催）が開催されました。今回の商談会は行政と市民が協力できる事業について意見を交換することが目的です。行政や市内のNPO、自治会長などのほか市外からの参加者など約90人が参加。事業内容などについてお互いの疑問や、意見を出し合いました。



協働の第一歩

くしま商道芸人

古屋勝人さん

今回初めて串間市単独で開催しましたが、予想を超えて多くの方に集ってもらえ、主催者の一人としてとてもうれしいです。NPOなどだけでなく自治会からも参加していただき、市民の皆さんの協働への意識の高さを実感できました。

Scene 2

人気の旧車が都井岬に集合



11月27日、都井岬にて市民発にぎわい創出事業の「第1回クラシックカーフェスティバル」（同実行委員会主催）が開催されました。県内外から約170台の車が参加。希少な昭和30年代の三輪自動車やポルシェなどさまざまな車種が集まりました。当日は自動車ファンなどを中心に約7,000人が来場。来場者は懐かしい名車を一台ずつじっくり鑑賞していました。



懐かしい都井

鹿児島県日置市

有村健二さん

このイベントのため参加車のサニートラックに乗って、15年ぶりに都井岬に来ました。フェスティバルにはよく参加しています。昭和40年代は就職の年代で、車を買った思い出があります。それが懐かしくて今でも昔の車に乗っていますね。

Scene 1

美しい水辺を守る清掃活動



11月27日、福島川親水公園および桜堤ロードの河川清掃（ふるさとの水辺環境を守る会主催）が実施されました。建設業協会や森林組合などの経済団体のほか、親子連れの市民の方など約150人が参加。沿道のゴミを拾いました。今回集まったゴミの量は、昨年と同じく2トントラック2台分ほど。美しい河川を守るため、今後も清掃活動を続けていきます。



清掃を初体験

福島・上町地区

古賀和久さん

子どもの通う小学校の連絡で、今日の清掃を知り、家族3人で参加しました。始めて1時間ほどで、ゴミ袋がいっぱいになり、ゴミがたくさん落ちていることを実感しました。このような清掃活動を続けていくことが大事だと感じています。